

後藤竜二 さん



町田ゆかりの児童文学作家 ごとうりゅうじ 後藤竜二 さんの本を紹介します。
文学館や図書館で閲覧・貸出できます。ぜひ手に取ってみてください。

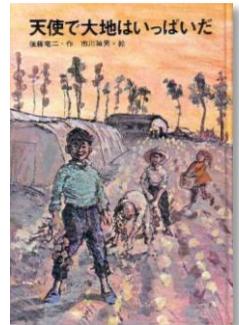
作家紹介

本名 隆二。1943年北海道美唄市生まれ。早稲田大学在学中に「少年文学会」に入会し執筆を始める。就職試験の勉強として書いた「天使で大地はいっぱいだ」が、1966年に第7回講談社児童文学新人賞佳作となりデビュー。1970年、『大地の冬のなかまたち』が第8回野間児童文芸推奨作品賞を受賞するなど数々の賞を受賞。町田市には1970年から2年間ほど暮らした。2010年7月3日、67歳で急逝。

作品介绍

『天使で大地はいっぱいだ』市川禎男／絵（講談社、1967年）

就職試験がわりに執筆した作品。生まれ故郷の北海道の農村を舞台に、厳しい自然や労働に生きる子どもの生活を描く。1966年、第7回講談社児童文学新人賞の佳作となり、翌年出版されてデビュー。全国学校図書館協議会選定図書にも指定された。



『地平線の五人兄弟』岡野和／絵（新日本出版社、1969年）

明治初期、ひょんなことから兄弟となった少年5人が北海道にわたり、数々の困難に立ち向かいながらも明日を信じ、自らの手で開拓村「山形村」で力強く生きる姿を描く。

『大地の冬のなかまたち』市川禎男／絵（講談社、1970年）

『天使で大地はいっぱいだ』の続編。農業を手伝いながら、自然のなかを自由に遊びまわる子どもの力強さ、子どもなりに厳しい現実立ち向かおうとする決意を描く。第8回野間児童文芸推奨作品賞受賞。

『おれたちのきょう』 寺戸恒晴／絵(毎日新聞社、1971年)

校内暴力や非行、受験戦争の激化などの当時の学校教育を背景に、問題児が集まる3年B組の7班の仲間が、自分たちの手で解決策を見出そうともがく姿を描く。

『算数病院事件』 田畑精一／絵(新日本出版社、1975年)

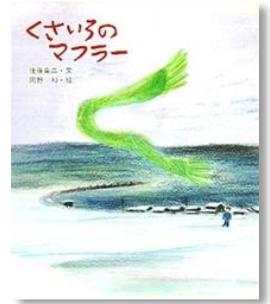
受験戦争や非行という、当時の子どもの生活に顕在化してきた問題をとりあげ、子どもたち自身による問題解決の可能性を追求した作品。

『白赤だすき^{こまる}小○の旗風』 岡野和／絵(講談社、1976年)

幕末の南部藩を舞台に、圧政にあえぐ農民の怒りを、少年・万吉の目から描いた歴史小説。第17回日本児童文学者協会賞を受賞。

『くさいろのマフラー』 岡野和／絵(草土文化、1978年)

冬の間に出嫁ぎに行く両親の帰りを待つ小学1年生の少年の心情を、お母さんが編んでくれた草色のマフラーに託してつづった作品。

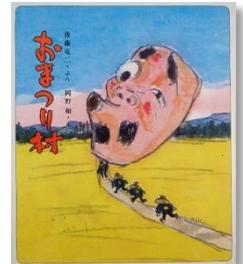


『故郷』 高田三郎／絵(偕成社、1979年)

1950年代末から60年代初頭の北海道の農村を舞台にした自伝的小説。一家の働き手としての期待と自分の夢との間で煩悶する主人公の成長を描く。第2回旺文社児童文学賞を受賞。

『おまつり村』 岡野和／絵(ポプラ社、1980年)

江戸末期から明治にかけて実在した、山形県の農民・森谷長兵衛をモデルにした物語。村民の暮らしを守るために政府と争い、「官林盗伐ノ科」によって刑に処せられた一農民の闘いを描く。



『少年たち』 花井亮子／絵(講談社、1982年)

校内暴力や非行などの学校の荒れが社会問題となっていた当時の中学校を舞台に、管理しようとする教師や学校に、懸命に抗おうとする中学2年生の少年たちを描く。第23回日本児童文学者協会賞を受賞。

『野心あらためず 日高見国伝』 田中禎子／絵

(講談社、1993年)

8世紀の日高見国を舞台に、土佐に流刑された蝦夷一族の末裔・アビが、祖父とともに逃亡を図り、祖国に戻って一族のために戦う歴史小説。第32回野間児童文芸賞を受賞。



『紅玉』 高田三郎／絵(新日本出版社、2005年)

作者の父親が子どもたちに度々語ったという、故郷・北海道美唄での終戦直後の体験を描いた絵本。りんごを略奪しようとする炭鉱の強制労働者である中国人たちと、りんごを守ろうとする父親の、それぞれの立場で、生を守ろうとする人間の葛藤を描く。

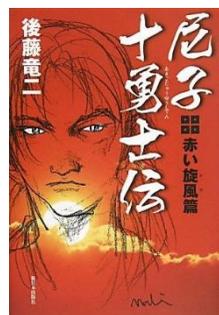


『風景』 高田三郎／絵(岩崎書店、2007年)

時代や題材が『故郷』の前半と重なる姉妹編ともいえる短編集。デビュー以来、自身のふるさとの風景にこだわってきた後藤が、その原風景と再び向き合った作品。

『尼子十勇士伝 赤い疾風篇』(新日本出版社、2010年)

戦国時代、毛利元就によって滅亡した尼子氏の再興に尽力した山中鹿之介幸盛らの活躍を描く。当初、この作品は「上巻」として執筆され、続編を構想していたが、ゲラがでる前に急逝し、絶筆となった。



● 「1ねん1くみ」シリーズ（ポプラ社、全25巻）

『1ねん1くみ1ばんワル』（1984年）
『1ねん1くみ1ばんげんき』（1985年）
『1ねん1くみ1ばんなかよし』（1985年）
『1ねん1くみ1とうしょう』（1987年）
『1ねん1くみもうすぐ春』（1987年）
『1ねん1くみ1ばんゆうき』（1988年）
『1ねん1くみ1ばんびじん』（1989年）
『1ねん1くみ1ばんいいやつ』（1990年）
『1ねん1くみ1ばんおかねもち』（1991年）
『1ねん1くみ1ばんがんばる』（1992年）
『1ねん1くみ1ばんびっくり』（1994年）
『1ねん1くみ1ばんやるき』（1995年）
『1ねん1くみ1ばんひみつ！』（1997年）

『1ねん1くみ1ばんこわ〜い！』（1998年）
『1ねん1くみ1ばんでっかい！！』（1999年）
『1ねん1くみ1ばんふしぎ？』（2001年）
『1ねん1くみ1ばんやさし〜い』（2001年）
『1ねん1くみ1ばんえらい！』（2002年）
『1ねん1くみ1ばんわがまま』（2003年）
『1ねん1くみ1ぼんドタバタ！』（2004年）
『1ねん1くみ1ばんあまえんぼう』（2005年）
『1ねん1くみ1ばんあったか〜い！』（2006年）
『1ねん1くみ1ばんくいしんぼう』（2007年）
『1ねん1くみ1ばんジャンプ！』（2008年）
『1ねん1くみ1ばんサイコー！』（2009年）

子どもたちの伸び伸びとした姿を描く「1ねん1くみ」シリーズは、1984年から25年にわたって刊行され、子どもたちの共感を得て長く読みつがれてきました。全25作を数えるこのシリーズは、元気でわんぱくな“くろさわくん”と、気が弱くて泣き虫の“ぼく”こと“しんくん”の友情を中心に、ぶつかり合いながら心を通わせていく「1ねん1くみ」の仲間たちの成長を描いています。



なお、さし絵画家の長谷川知子さんも町田ゆかりの作家です。

読んでみたい本があったときや、
ここにのっていない後藤さんの本について知りたいときには、
文学館や図書館カウンターのお声がけください。